

地先漁場管理・資源活用事業 (要 約)

仲村 俊毅・桐原 慎二

はじめに

本事業は、平成11、12年度に陸奥湾、日本海、津軽海峡西部を対象に、「緊急地域雇用対策事業」の一環として実施された「藻場・水産資源マップ作成事業」の後継事業であり、青森県沿岸の底質、藻場の分布、アワビ、ウニ、サザエ、ホッキガイ、ナマコ等の定着性資源の状況を把握するとともに、それを基に漁場管理・資源活用指針を作成、指導を行うこととしている。平成13年度は佐井村から東通村に至る下北半島沿岸において、「藻場・水産資源マップ作成調査」を行うとともに、指針作成の準備にあたった。

方 法

海岸線沿いに約500m間隔で調査線を設け、各調査線毎に原則として水深2.5、5、10、15mの4地点を調査地点とした。一部では調査費用を漁協が負担し、水深1、20、25mを追加している。

調査は各調査地点において、GPS位置測定器により緯度、経度を記録。潜水により海底の様子を写真撮影するとともに、おおそ半径5mの海底を目視観察により岩盤、転石、礫、砂、泥等の被度を測定した。底質については浮泥がみられた場合はその厚さを、砂泥場では鉄筋を差し込んで深さ1m以内の範囲内で砂泥厚を測定、さらに約50gを採取して粒度組成を、約5gを採取し110℃、13時間加熱乾燥後、600℃で2.5時間加熱により強熱減量を測定した。

海藻（草）類については10%以上の被度の認められた種について25cm四方枠1枠を採取し、湿重量を求め、コンブ目、ヒバマタ目植物については個体数をカウントした。またコンブ目植物については個体毎の葉長、葉幅、重量等を測定した。

底生生物については1m四方枠2枠分を採取し、種毎に個体数と湿重量を求めた。また、アワビ、サザエ、キタムラサキウニ、イトマキヒトデ等の主要な出現種については個体毎に殻長、殻径、腕長、重量を測定した。

結 果

調査は表に示した6市町村、15漁業協同組合の地先漁場の計987地点で実施、各調査地点の海底の状況の画像及び主要な海藻（草）類や底生生物の分布状況を示した泡グラフ等を各漁業協同組合毎にCD-ROMにまとめ、関係機関に配布した。

表 漁業協同組合ごとの調査線及び調査地点の数

市町村名	漁業協同組合名	調査線数	調査地点数
佐井村	佐井村	62	223
大間町	奥戸	13	88
	大間	15	78
風間浦村	蛇浦	11	44
	易国間	11	44
	下風呂	15	60
大畑町	大畑町	19	76
むつ市	関根浜	8	32
東通村	石持	11	44
	野牛	10	30
	岩屋	8	32
	尻屋	25	114
	尻労	8	32
	小田野沢	10	30
	白糠	15	60
	計	241	987